

春の大セミナー2018 20 番テーブル 総評

文献：小澤(フェリス 4)



1. テーブルメンバー
2. 議論の流れ
3. 順位と選定理由
4. おわりに

1. テーブルメンバー (順不同)
安藤(法市 3) 向田(明治 3) 大柴(東大 2)
牧口(高経 2) 篠原(高経 2) 稲葉(武蔵 2)

2. 議論の流れ

まず始めにこの総評はジャッジから見たテーブルへの理解をもとに述べています。もしかしたら実際にいたテーブルメンバーと理解の齟齬があるかもしれません。ご了承ください

さい。

<OP>

OP には向田ただ一人が立候補した。トピックは体罰であり、Mandate は体罰をした先生は全員解雇されるものであった。

<ASQ>

ASQ サイドは特にこれといった停滞はなく、パンツが適度に OP に質問しスムーズに進んだ。

<NFC>

稲葉による、現状でもうすでに体罰は減少しており罰も重いものであるためこのままでも体罰は減少していくという意見が出された。

向田がカンファメーションしたあと、稲葉が「ゴールを change mandate にする」と発言したが、そのアイデアが思い浮かばないという理由で結局ゴールは変更されず議論が進んだ。稲葉の説明が続く中、安藤がこのまま現状維持をしても体罰は減少するかもしれないが T/P した方がより減ると述べ、安藤の提案するコンパリで再議論することになった。

<Solution>

2nd linkage で 3 つの意見が出された。

- ① mandate である重い罪のせいで先生にストレスがかかり、そのストレスのせいでより体罰をしてしまう先生がいる。そのため体罰は減少せず先生がする体罰もさらに重くなってしまうという稲葉の意見。

向田の質問のあとに稲葉が「DA のほうがいいか」と聞き、「タスクを否定できないなら」となりこの意見を DA で話すことになった。

- ② 先生は生徒の気持ちを理解することができないため体罰をし続けるという篠原の意見。

向田が質問をいくつかするが、意見を理解するのに時間がかかってしまった。そのあと安藤による質問とカンファメーションにより、先生は体罰をしても隠すため体罰が APA でも減らないとなり、logic を向田が書き直した。その後向田の提案によって DA で出すこととなった。

- ③ Mandate は解雇のみであり、APA では BOE が体罰の原因を調査しないため体罰が

減らないという大柴の意見。

安藤の質問により、調査が必要な理由が 1. 体罰の度合いによって先生に対する罰の重さを決定しているから 2. 1 により、今回の mandate が先生にとって重いものであるからとわかった。その後稲葉の質問により、大柴は一時的に体罰が減少することは認めているがその後体罰は増加していくという意見を持っていることが分かった。最終的に安藤が、抑止力が上がるため体罰をしない先生もいると反論したが大柴が DA で出すと結論づいた。

<DA>

安藤、稲葉、篠原、牧口、大柴が立候補した。結果稲葉の精神的苦痛と肉体的痛みを生徒からうける恐怖のためいじめを受けたくないという DA が選ばれた。

<Comparison>

最初に稲葉が DA>AD のアイディアを二つ提示した。しかし最初は AD>DA から議論しようとなり、向田が AD>DA のアイディアを出した。内容は、AD は先生から体罰を受けており、DA は生徒からいじめを受けているため(体罰をする)先生の方が(いじめる)生徒よりも力が強いと AD の m/s の方が深刻という QL コンパリであった。すぐに安藤、稲葉が定義詰めしていった。しかし途中で向田が DA を肉体的苦痛だけにしたいと提案したが通らなかった。その後安藤が、力の強さで比べた場合若い先生>子どもは認めるが、子ども>お年寄りの先生のため一概に AD>DA とは言えないと反論した。それに稲葉が、先生の年齢はだいたい 45 歳であり子どもは 15 歳くらいであるため AD の方が力が強いと補足をした。その後大柴が子どもは 7-15 歳、先生は 23-60 歳のためどちらも平均で子ども 11 歳、先生 42 歳と計算したものを提示した。しかしこれに対し安藤がこの数字はただの年齢の平均を取ったものであり本当に当てはまるかわからないと述べた。最終的に向田が大柴の発言は正確かどうかはわからないから、稲葉の大人 45 歳、子ども 15 歳の発言を使うと発言し 45 歳>15 歳と力の強さを表した。そこから次に稲葉が frequency では DA>AD と反論した。しかしこれを議論している最中に時間切れとなった。

3. 順位・選定理由

1 位 向田（明治 3）

どの話にも積極的に介入していたこと、大体の話を向田が結論づけたこと、OP として議論の土台を作ったことの 3 点を評価し 1 位にしました。積極的に AD を取りにいった姿もとても良かったです。しいて言うなら S を出すときにタスク以外の理由も言えたらなお良かったです。ただ雰囲気よく議論を進めコンパリでも AD>DA を立論しようとしていた姿勢とても良かったです。1 位おめでとうございます。

2 位 安藤（法市 3）

向田と同じく積極的に介入していたところ、話を結論付けたところを評価し 2 位にしました。前半は結構発言をしていましたが、後半は介入量が減っていた印象があります。しかし視点はものすごく良く、テーブルで一番質が良かったです。Q と C はできていたのでそのまま S まで自分で持っていければもっとよかったと思いますし順位も変わっていたかもしれません。これからも応援しているのでぜひ頑張ってください。

3 位 稲葉（武蔵 2）

アイディアの提示、DA プレゼンターとして議論の土台を作ったこと、コンパリでの発言を評価しました。コンパリに関しては今まで一度もやったことがないと言っていたのにも関わらず、積極的に介入をし OP に反論もしていてとても良かったです。また DA の質問タイム中に一回した C はとても上手でした。ぜひ自信をもってこれからも頑張ってください。

4 位 大柴（東大 2）

アイディアの提示、議論に介入した点を評価しました。しかし介入量が限定的だったため、もう少し介入ができたならよかったと思っています。ただアイディアは良い内容だと思ったのでもう少し深く考えてみるのもいいと思います。また介入しようという意思是伝わりました。ぜひアッセンに向けて介入方法など考えてみてください。

5 位 篠原（高経 2）

アイディアの提示を評価しました。しかしテーブルメンバーにうまく内容が伝わっていなかった部分がありました。そのため logic を説明した後に補足で具体的な example や絵などを使って説明すればよかったと思います。またもし伝わらなかったら言葉のチョイスも変えるなどしてぜひ次からチャレンジしてみてください。応援しています。

6 位 牧口（高経 2）

介入量がほとんどなかったためにこの順位となりました。せっかく 3 時間議論している

のだから何かアイデアや質問などを事前に準備してもいいと思いました。しかし選ばれなかったものの DA に立候補していてその姿勢はとても良かったです。これからは DA 以外で話す方法を考えてみてください。応援しています。

4. おわりに

皆さんお疲れ様でした。このテーブルは雰囲気もよく、最後にとってもいいテーブルを見ることができてうれしい気持ちでいっぱいです。3 年生は最後のアッセンで悔いが残らずプレイヤーを引退できるようにあと少し頑張ってください。2 年生も 3 年生に負けないう気持ちで頑張ってください。本当に本当に応援しています(^_^)/